

令和2年度用「中学社会 歴史」3年 年間指導計画作成資料（案）

令和2年5月版

取り扱いに当たっての留意事項

- 「学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動」では、学習内容や時数について考えられる案を示しています。学校や地域の実態に応じてご参照ください。
- 表中の「学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動」とは、「学校の授業以外の場で学習したことを基に、授業で各活動が展開されること」を前提としています。学校以外の場のみで学習が完結するということではありませんので、授業における配慮をお願いします。
- 単元ごとの配当時数、主な学習活動などは、今後変更になる可能性があります。予めご了承ください。
- 各単元の評価規準、及び評価基準については、弊社ウェブサイトの「年間指導計画・評価計画（案）」をご参照ください。

教育出版

歴史的分野 指導計画表 (第3学年)

※歴史的分野(第3学年)の教科書での時数37時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動6時間

(第3学年の社会科全体の時数140時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動33時間)

※教科書では、第3学年での歴史的分野の配当時数を40時間と想定し、「本時」および「学習のまとめと表現」を合計37時間で設定し、残りの3時間を予備として、特設ページなどを弾力的に取り扱っていただくように構成しています。

本資料では、「身近な地域の歴史」や「学習のまとめと表現」など6時間分を、学校の授業以外の場で行うことで、今年度のカリキュラムを31時間の授業時数で作成できるように提示しています。

身近な地域の歴史を調べる活動

(配当5時間, うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動2時間)

累計時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
81 82 83 84 85	<p>◆身近な地域の歴史を調べる活動(郷土の歴史を探ろう)</p> <p>1 調べるテーマを決める</p> <p>2 課題を決めて調べる①</p> <p>3 課題を決めて調べる②</p> <p>4 考察して結果をまとめる</p> <p>5 発表して振り返る</p> <p>(実際に学習を行う時期に応じて、p.30~31, 66~67, 116~117, 210~211, 252~253などを参照。)</p>	<p>○身近な地域の歴史について関心を高め、資料の活用の仕方、博物館や遺跡の見学、現地調査などの活動を通して、歴史の学び方を身に付ける。</p> <p>○資料の活用の仕方、博物館や遺跡の見学、現地調査などの活動を通して、具体的な身近な地域の歴史について、理解を深める。</p>	<p>●地域の歴史に関する書籍や自治体史などの資料を選定・紹介し、その読み取りなどを行うことで、資料活用の方法を学ぶような形に転換することが考えられる。</p> <p>●資料の提示や、資料活用の方法の紹介などは授業時間中に行い、個別の資料の読み取りや、学習したことをまとめる活動などを各自で行うことが考えられる。</p> <p>【2時間】</p> <p>※なお、この内容を第2学年までに学習している場合には、第3学年での取り扱いは不要。</p>

第7章 二度の世界大戦と日本

(配当19時間, うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動2時間)

1節 第一次世界大戦と民族独立の動き(配当5時間)

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
86	①クリスマスまでには帰れるさ (p.194～195) ・ヨーロッパの火薬庫 ・第一次世界大戦の始まり ・新兵器と総力戦	○第一次世界大戦は、植民地や勢力圏をめぐるヨーロッパの列強諸国間の対立や、民族問題を背景として起こったことを理解する。 ○第一次世界大戦が、史上初の世界的な規模の戦争で、新兵器も登場して総力戦となったことに気づくとともに、参戦国や国民生活にもたらした影響について考える。	
87	②パンと平和、民主主義を求めて (p.196～197) ・ロシア革命 ・社会主義と講和原則 ・アメリカの参戦 ・干渉戦争とソ連の成立	○ロシア革命が起こった経緯や、ソビエト政府の社会主義政策についてとらえ、連合国側がソビエト政府に対する干渉戦争を始めた理由に気づく。 ○アメリカの参戦や、ソビエト政府とアメリカが示した講和原則が、第一次世界大戦と戦後の世界に与えた影響について考える。	
88	③成金の出現 (p.198～199) ・日本の参戦と二十一か条の要求 ・シベリア出兵 ・大戦景気	○日本は、勢力拡大を目的に第一次世界大戦に参戦し、中国に対して二十一か条の要求を認めさせ、シベリアにも出兵したことを理解する。 ○大戦景気によって日本の経済が急成長し、事業を拡大した大企業が、財閥として経済界を支配するようになったことに気づく。	
89	④不戦の誓い (p.200～201) ・第一次世界大戦の終結 ・国際連盟の設立 ・軍縮と国際協調 ・民主主義の拡大	○第一次世界大戦の終結と講和の内容についてとらえ、ヨーロッパでは多くの国が独立したにもかかわらず、アジアやアフリカで民族自決が認められなかった理由を考える。 ○大戦後には国際連盟が設立され、軍縮の動きや国際協調の気運が高まるとともに、民主主義も国際的に広がったことを理解する。	
90	⑤わきあがる独立の声 (p.202～203) ・朝鮮の三・一独立運動 ・中国の五・四運動 ・インドの民族運動	○第一次世界大戦後、朝鮮・中国・インドで独立などを求める民族運動があい次いで起こったことや、日本は朝鮮の三・一独立運動を武力でおさえつけたことを理解する。 ○アジアでの民族運動の高まりの背景には、民族自決の理念の広まりがあったことに気づく。	

2節 大正デモクラシー(配当3時間)

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
91	⑥憲政の本義を説いて (p.204～205) ・護憲運動 ・民本主義 ・米騒動 ・政党政治の確立	○第一次護憲運動や米騒動といった民衆運動の高まりや、民本主義の提唱などを背景に、大正時代に日本で初めて本格的な政党内閣が成立したことを理解する。 ○米騒動を引き起こした米価の高騰は、第一次世界大戦の影響やシベリア出兵と関わりがあることに気づく。	
92	⑦デモクラシーのうねり (p.206～207) ・社会運動の高まり ・普通選挙と治安維持法 ・協調外交	○大戦後の経済不況を背景に、労働者や農民による争議、社会主義運動、差別からの解放を求める運動などの社会運動が高まったことを理解する。 ○政党内閣のもとで普通選挙法が成立し、協調外交が進められた一方で、治安維持法が制定されたことの意味を考える。	
93	⑧モボ・モガの登場 (p.208～209) ・都市の生活 ・文化の大衆化 ・新しい学問と文学・芸術	○大正時代には、都市人口の急増により大都市が発達し、生活の洋風化が進むとともに、サラリーマンや職業に就く女性も増えたことを理解する。 ○国民の教育水準が高まるなかで、新聞や雑誌、ラジオ放送などのメディアが発達し、文化の大衆化が進んだことに気づく。	
—	◆郷土の歴史を探ろう④ 大正・昭和初期の面影を訪ねて (p.210～211)	○身近な地域に残る大正・昭和初期の建物や町並みについて、様々な視点や方法で調べる活動を通して、地域の歴史への関心を広げ、学び方を身に付ける。	

3節 恐慌から戦争へ(配当5時間)

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
94	㉑独裁者の出現 (p.212～213) ・アメリカの繁栄と世界恐慌 ・恐慌への対策 ・ファシズムの台頭 ・ソ連の計画経済	○世界恐慌が起こった経緯をとらえ、その対策としてアメリカが行ったニューディール政策や、イギリス・フランスが行ったブロック経済の特徴について理解する。 ○ドイツやイタリアでファシズムが台頭した経緯をとらえ、多くの国民が独裁者を支持した理由について考える。	
95	㉒日本を襲う不景気 (p.214～215) ・経済の混乱 ・国民の不満 ・中国統一の動き ・協調外交の行きづまり	○日本では、関東大震災による打撃や世界恐慌の影響を受けて経済が混乱し、生活が逼迫した国民の間には、政党政治に対する不満と不信が広まったことに気づく。 ○政党内閣の進める協調外交がしだいに行き詰まったことを、国民政府軍による中国統一の動きと関わらせて理解する。	
96	㉓満州は日本の生命線 (p.216～217) ・満州事変 ・国際連盟脱退 ・国際社会からの孤立	○満州事変が起こった経緯をとらえ、日本がつくらせた満州国は、事実上の植民地であったことに気づく。 ○満州事変を支持する国内の世論を背景に、日本は国際連盟を脱退し、軍縮も破棄して国際社会から孤立していったことを理解する。	
97	㉔「話せばわかる」 (p.218～219) ・政党政治の終わり ・軍国主義の高まり ・日中戦争の始まり ・長期化する戦争	○五・一五事件と二・二六事件をきっかけに、政党政治に代わる軍国主義の動きが高まり、軍部が政治への発言力を強めていったことを理解する。 ○満州と華北をめぐる対立から、日本は中国と戦争を始めたことや、抗日民族統一戦線の結成など中国の抵抗により、戦争が長期化していったことを理解する。	
98	㉕ぜいたくは敵だ (p.220～221) ・国家総動員法の成立 ・強まる戦時体制 ・国民生活の統制 ・皇民化政策	○国家総動員法の制定や、大政翼賛会・隣組などの組織が、戦争遂行のために果たした役割について考える。 ○政府は、メディアや教育、生活物資などを通じて国民生活を厳しく統制したことや、植民地の人々に対しても、日本人に同化させる皇民化政策を強めたことを理解する。	

4節 第二次世界大戦と日本の敗戦(配当4時間)

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
99	⑭枢軸国と連合国の戦い (p.222～223) ・第二次世界大戦の始まり ・ドイツの侵攻と抵抗運動 ・大西洋憲章	○第二次世界大戦の開戦の経緯をとらえ、ドイツがイタリア・日本と結びつきを強めて枢軸を形成したことや、占領地でユダヤ人虐殺などの過酷な支配をしたことを理解する。 ○民主主義を守ることを掲げた国々が、大西洋憲章のもとに連合国としてまとまったことに気づき、大西洋憲章の意義について考える。	
100	⑮米・英への宣戦布告 (p.224～225) ・日本の南進と日米の対立 ・太平洋戦争の始まり ・日本の占領政策	○日中戦争が長期化するなか、日本は軍需物資を求めて東南アジアに侵攻し、アメリカとの対立から太平洋戦争を始めたことを理解する。 ○「大東亜共栄圏」を提唱した日本の占領政策についてとらえ、植民地からの解放を期待したアジアの人々がどのように受け止めたのかを考える。	
101	⑯欲しがりません勝つまでは (p.226～227) ・お国のために ・戦時下の国民生活 ・国外からの動員 ・空襲と疎開	○戦争が総力戦となるなか、学生を含む多くの国民や植民地・占領地の人々が、兵力や労働力として動員・連行されたことを理解する。 ○戦況が悪化するなか、国民生活は窮乏し、日本への空襲が繰り返されるようになって、国内でも大きな犠牲が生じたことを理解する。	
102	⑰軍国主義の敗北 (p.228～229) ・イタリア・ドイツの降伏 ・戦場となった沖縄 ・原爆投下と日本の降伏 ・戦争の傷あと	○イタリア・ドイツの降伏に続いて、日本も沖縄戦や広島・長崎への原爆投下、ソ連の参戦などを経て降伏し、第二次世界大戦が終結したことを理解する。 ○終戦後も残留孤児やシベリア抑留などの被害が続いたことに気づき、戦争は国内外で多大な惨禍をもたらしたことを理解する。	
—	◆人物から歴史を探ろう⑥ 後藤新平と杉原千畝 (p.230～231)	○後藤新平や杉原千畝の行動や生き方について、大戦期の時代背景との関わりをなかで関心をもつとともに、地域社会・国際社会に生きることの意味について考えを深める。	
103 104	★学習のまとめと表現 (p.232～235)	○「大戦期」の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを言葉や作品に表現して、時代の特色をとらえる。 ○「大戦期」から現代へ時代がどのように変化していったのか、子どもたちの生活の違いに着目して関心をもつ。	●p.232～233では第7章の学習を振り返り、近代の時代の移り変わりや、歴史的事象が起こった地域の確認、政治や社会の動きについての整理に取り組む。 ●p.234～235では「『大戦期』の時代の特色を考えよう!」に取り組む、時代の特色を考察して自分の言葉で表現し、まとめる。また、「時代の変化に注目しよう!」に取り組む、資料から現代(第8章)の様子について予想を立てる。 【2時間】 ※教師用指導書に収録されている「ワークシート」を活用することも考えられる。

第8章 現代の日本と世界

(配当13時間, うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動2時間)

1節 日本の民主化と冷戦(配当5時間)

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
105	①敗戦からの再出発 (p.236～237) ・連合国軍の日本占領 ・民主化政策の始まり ・国民生活と大衆文化	○連合国軍による日本占領や民主化政策についてとらえ, その方針がポツダム宣言に基づいていることに気づく。 ○敗戦後の苦しい国民生活のなかで, 人々の間には統制からの解放感が広がり, 娯楽や文化もしだいに復興していったことを理解する。	
106	②平和国家を旨として (p.238～239) ・日本国憲法 ・新しい民法 ・教育の民主化 ・財閥解体と農地改革	○日本国憲法の制定過程や三原則についてとらえ, 憲法制定により民主主義国家としての根幹が定まったことに気づく。 ○民法の改正, 教育基本法の制定, 財閥解体, 農地改革などの改革のねらいや影響について理解し, 戦前の制度と比べて, その特色を考える。	
107	③冷たい戦争の始まり (p.240～241) ・国際連合の設立と米ソの対立 ・アジア諸国の独立と中国・朝鮮 ・アジア・アフリカ会議	○大戦の反省から新たに国際連合が発足した一方で, 米ソの対立から東西陣営の冷戦が生じたことを理解し, ドイツや朝鮮が二つに分断されたことに気づく。 ○中国で中華人民共和国が成立し, アジア・アフリカでは植民地の独立があい次ぐなか, 中東ではイスラエルとアラブ諸国の間で戦争が続いたことを理解する。	
108	④38度線の緊張 (p.242～243) ・占領政策の転換 ・朝鮮戦争	○冷戦の緊張が高まるなか, 日本に対するGHQの占領政策が大きく転換したことを理解し, その理由について考える。 ○朝鮮戦争の経緯や日本との関わりをとらえ, 日本に特需景気をもたらしたことに気づくとともに, GHQが警察予備隊を新設させた目的について考える。	
109	⑤独立から復興へ (p.244～245) ・独立と国際社会への復帰 ・原水爆禁止運動 ・戦後の経済復興と政治体制	○日本は, 平和条約を結んで独立を回復し, 国連に加盟して国際社会に復帰したことを理解するとともに, 安保条約によりアメリカの強い影響下におかれたことに気づく。 ○冷戦を背景に, 国内では原水爆禁止運動が盛り上がったことや, 経済が急速に復興するなか, 自由民主党が政権を担当する政治体制が築かれたことを理解する。	

2節 世界の多極化と日本(配当3時間)

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
110	⑥自主・独立・平和を求めて (p.246～247) ・ベトナム戦争 ・ECの発足とプラハの春 ・中東の紛争と石油戦略	○ベトナム戦争の経緯や日本との関わりについてとらえ、ベトナム反戦運動の世界的な高まりに気づく。 ○経済の統合や民主化など、東・西ヨーロッパで米ソに対抗する動きが起こったことや、中東の紛争を背景に、アラブ諸国の石油戦略が先進国に影響を与えたことを理解する。	
111	⑦国際関係の変化 (p.248～249) ・安保改定と反対運動 ・韓国・中国との国交正常化 ・沖縄の本土復帰	○安保条約改定の内容や経過をとらえ、国民の間に大規模な反対運動が起こった理由について考える。 ○日本と韓国・中国との国交正常化や、沖縄の本土復帰の経緯についてとらえらるとともに、今日まで残された課題があることに気づく。	
112	⑧高度経済成長の光とかげ (p.250～251) ・日本経済の高度成長 ・国民生活の変化 ・公害の発生 ・石油危機と貿易摩擦	○1960年代の高度経済成長により、国民生活は豊かになった一方で、過疎・過密化などの社会問題や深刻な公害問題が生じたことを理解し、その原因について考える。 ○石油危機の打撃を受けた日本が、産業構造を転換させたことや、その後の輸出超過により各国と貿易摩擦が起こったことを理解する。	
—	◆郷土の歴史を探ろう⑤ 移り変わる戦後の街を訪ねて (p.252～253)	○戦後の身近な地域や人々の暮らしの変化について様々な視点や方法で調べ、まとめる活動を通して、地域の発展を願う人々の営みに気づく。	

3節 冷戦の終結とこれからの日本(配当3時間)

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
113	⑨変動する国際社会 (p.254～255) ・冷戦の終結 ・EUの結成と進展 ・地域紛争とテロ事件	○東西ドイツの統一やソ連の崩壊により冷戦が終結したことを理解するとともに、地域紛争やテロ事件が今もなお続くなかで、日本が果たすべき国際的役割について考える。 ○政治統合をみざすヨーロッパ連合の動きについてとらえ、こうした動きは世界にも広まりつつあることに気づく。	
—	◆世界から歴史を探ろう⑨ 隣国と向き合うために (p.256～257)	○市場経済の導入による中国の経済発展、韓国の急速な経済成長と民主化、南北首脳会談の実現など、東アジアの動きについて理解する。 ○北朝鮮との外交の動きについてとらえるとともに、交流が活発化する東アジアの国や地域との間に、様々な課題が残されていることに気づき、これからの関係について考える。	
114	⑩私たちの生きる時代へ (p.258～259) ・バブル経済とその影響 ・55年体制の崩壊と政権交代 ・不安定な時代	○バブル経済の経緯と、その崩壊で日本経済が長い不況に入ったことを理解するとともに、その後の政権交代の推移をとらえ、新たな政治のあり方が模索されていることに気づく。 ○阪神・淡路大震災や地下鉄サリン事件、東日本大震災などが、社会に及ぼした影響について考える。	
115	⑪未来をひらくために (p.260～261) ・社会の変化のなかで ・地球環境問題 ・人権を尊ぶ ・平和を築く	○グローバル化・情報化・少子高齢化の動きをとらえ、自分たちの生活に様々な影響を及ぼしていることに気づき、公的分野の学習への課題意識をもつ。 ○環境や人権を守り、豊かで平和な国や世界を築いていくことの重要性を理解するとともに、自分たち一人ひとりが果たすべき役割について考える。	
—	◆人物から歴史を探ろう⑨ 平和を願う人々と平和の祭典「オリンピック」 (p.262～263)	○第五福竜丸の保存運動、「原爆の子の像」の建設、平和首長会議の開催、オリンピック・パラリンピックの開催などを通して、平和への人々の願いについて理解を深め、核兵器のない平和な世界の実現に向け、自分たちが取り組むべき行動について考えを深める。	
116 117	★学習のまとめと表現 (p.264～266)	○現代の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを言葉や作品に表現するとともに、「大戦期」からの時代の変化をとらえ、時代の特色とこれからの時代について考える。	●p.264～265では第8章の学習を振り返り、現代の時代の移り変わりや、歴史的事象が起こった地域の確認、政治や社会の動きについての整理に取り組む。 ●p.266では「時代の変化に注目しよう!」や「現代の時代の特色と、これからの時代について考えよう!」に取り組む、時代の特色を考察して自分の言葉で表現し、まとめる。 【2時間】 ※教師用指導書に収録されている「ワークシート」を活用することも考えられる。